

孫娘の祝福の結婚式

5月25日光溢れるアンネのバラ教会で清廉な結婚式を挙式させて頂きました。
庭園にはアンネのバラが咲き誇り背後からはアンネの銅像にも祝福された清らかで美しい風景と神様からの溢れる祝福が参列者全員に感じられた深い感動に満ちたひと時を喜びの涙をぬぐいはらう間もない感動から喜びへの波々に囲まれて式は終わりました。

二人は牧師さんの導きに従い10月に同じ場所で婚約式を行い、結婚準備に至る教育を受け「結婚の意味」「二人で築いていく家庭について」等々長い人生の苦難や危機を乗り越える心構えを学んで結婚に漕ぎつけました。結婚式もキリストの前で誓約・署名するという厳粛さの中でお祝いの讃美歌が聖歌隊の方々によって歌われ、会衆一堂も讃美する清々しい雰囲気二人の心に最高の幸せとして残ったようです。

この教会の庭園にはアンネのお父さんから送られたアンネのバラの種を植え付け、全国の希望者に種を送って

「アンネの

平和への理想」を伝えていきたい思いがあります。

式は10時から40分、その後庭園での撮影や歓談の時を経て、場所を移して親族だけの披露宴となり、ここでも二人が心を込めて準備した完璧なもてなしが素晴らしくスマートに行われました。日頃の二人の家族の人柄が滲み出ていました。

式後、新幹線に揺られて自宅について下記のような手紙を二人に出しました。

私的なところは修正しましたがほぼ同文です。



手紙による祝辞

夫〇〇〇〇さん・妻〇〇〇〇さん

お元気で精励されていると存じます。

過日は心に沁み残る、周りを幸せにする結婚式、披露宴に招待いただきありがとうございます。

多忙な日々であると存じます。二人とも無理をせずゆっくり価値観の共有をして歩んでください。

今日。一つのこと「家庭とは」について私の体験から話します。

家庭について

(1)家庭は「寛げる唯一の場所です」

寛げるという文字は寛容、寛大という字になります。

昔、私の知人がお子さんに寛子という名をつけました。読み方は「ひろこ」です。

容は容器で器（うけいれる）です。寛げる（くつろげる）場とは、広い心で、受け入れられることができる場です。

(2)家庭は「帰りたくなる場です」

あなた方のように福祉に従事している人は、仕事で人間関係で疲れ果てています。仕事では相手の我儘をどう受け止めるかを瞬時に判断していますから、気づかないうちに精神的な疲労が溜まります。それを逃（のが）れる場は家庭しかありません。

人間関係において危険がない場所が家庭です。家庭ではオープンマインドです。

〇〇先生から教わったことと思います。何でもその日の話題を話し合うことです。

お互いに福祉に携わっていますから、共通の話題があるでしょう。話すことで、相手に聞いてもらうことによって自分の考えが纏まっていくのです。ですから、話し合うということとは「相手の話をよく聴くことです」何事においても相手を責めないで最後までしっかり攻めずに聴くことです。言いたい自分の意見は後から言えばいいです。

(3)家庭は安心できる場です。安息の場でもあります。

疲れた肉体を休め、緊張した精神を弛め、不平不満をかなぐり捨て、心身の回復をするところです。心身充実して明日からまた使命を果たせる職場に出ていくところです。

外ではあなた方の笑顔や誰にもできないことをしてもらおうとする人が一杯いっています。家庭では些細な不安も話すこと。嫌なことを話し合うことです。但し職業上の機密は家庭の外には漏れないようにしましょう。

(4)家庭は「自分自身を100%表現してよい場です」

お互いに育った環境が違いますから価値観と習慣はすぐには同じになりません。

違いが対立することにもなります。これも話し合いによって解消していきます。

話し合う姿勢は「何事においても相手を責めないことです」

(5)家庭は「人間が不完全であることを99%認め合える場です」

なぜ1%を残したかは私の考えです。1%の意味は「相手が嫌がることはしない」。

不完全だからということに甘んじていては、自己中心的な人間から成長しないまま老人になります。

福祉の世界で働くあなた方には毎日直面していることでしょう。乳幼児も例外ではありません。

家庭は先ず二人の世界ですから、家庭は社会の最小単位を形成します。相手の嫌がることを職場でしたらどうなりますか。二人の世界ではお互いに相手が嫌がることを早期に気がつくと思います。（但し偏食等は健康上の問題で修正しなければならないことは話し合っ

て改める努力をすべきであることは言うまでもありません）
家庭は人間の矛盾と人間の矛盾がぶつかり合う場です。この矛盾を乗り越えるところに成長があり、寛げる場が持続的に実現できると私は考えています。不完全性を攻めあわないことです。

例えば、「電気の消し忘れ」「ドアの閉め忘れ」の類の失敗があったとします。

その時に、あなたはどんな対応をしますか？

「又、忘れてる」「何度言ったら分かるの」と相手を責めるような言い方をすると相手はどんな気持ちになるか。「そんな些細なことであらうさ」「わかったよ。うらさいなあ」「そんな言い方しないでも分かってるよ」等々です。

相手の癖はこれでは直りません。心理学ではこの場合どういふのか「電気の消し忘れこれで10回です」と事実を相手に知らせるという方法があると言いますが、これは職場ではかなり有効でしょうが家庭では無効です。事実を指摘されても嫌味に聞こえることが多いです。

ではどうするか。考えてみてください。例えば「電気のスイッチ切っておきましたよ」と優しく伝える。「ドア寒かったから閉めておきましたよ」と優しく言う。相手はどのような気持ちで受け取るでしょう。「そうか、自分の不注意で相手に迷惑をかけてすまない。これからは注意しよう」という気持ちになると思います。そうすれば数回のミスで治ります。

(6)家庭は平和を作り出せるところです。

世界は戦争が続いています。平和は遠いです。日本は平和でしょうか？

戦争のできる国にしようとする人々が増えています。危険と暴力と窮乏がなくなりません。しかし、近くの公園に行きますと親子連れが仲良く遊び食べ話し動いています。

乳幼児が天真爛漫によちよち歩いている姿は、誠に美しいです。お花畑の花たちも喜んでその姿を見ています。平和を作り出せるのはまず家庭です。家庭は最低単位の社会です。

二人の間に平和が作り出せないから社会で争いが起こり国々では戦争が起こります。

平和な家庭も多くはありません。原因は一つ、皆んなが自分にだけ目を向けているからです。言葉では「愛していても」態度では、心の中が現れますから、相反する行動になります。悲しいことが多いです。

ともかく

家庭は安息の場です。

特に福祉の仕事に従事している二人に必要なエネルギーは家庭で醸成されます。

最後に、〇〇〇 に申します。

貴女の笑顔は最高です。そして、貴女の話し方の絶妙さは他人を安堵させます。

神さまは貴女に人間の中で最高のお恵みを与えてくださったと私は信じています。

その笑顔と話し方（音質、スピード、間の撮り方、安堵感ーーーー）を家庭でも忘れないように。私の自慢の孫です。

そして、〇〇さんが、いつも貴女の危機の時に心の支えとなり側にいてくれたこと、その優しさと愛を忘れないように。素晴らしい青年です。

同封の「初めての祈り」は私が愛用している本です。

一緒に祈ることができれば嬉しいと思います。

短い祈りです。朝に夕に共に祈りましょう。

あなた方には夕食の前後に夕べの祈りが相応しいかも知れません。

それでは、お二人の元気を祈っています。在主。

2022年6月3日

小原靖夫

あとがき

今月は60年ぶりに会った先輩がいます。たくさんのグッドニュースがあるのですが

月半ばで健康を害し一つのことしかお伝えできません。遅くなりましたことお詫びいたします。パリ通信もオンが遅れてしまいました。

次ページからパリ通信です

パリ通信・第126号

シャルル・カモワン展

ロシア軍のウクライナ侵略が始まって108日が過ぎた。ウクライナ東部の軍事支配を進めるロシアが攻撃を止める気配はない。子供を含むウクライナ人一般市民の死者は増える一方で、建物は破壊され、6月に入り、ヨーロッパやアフリカに輸出されるウクライナ産小麦粉がロシアに掠奪され始めた。小麦粉を貯蔵しているサイロがミサイル攻撃に遭い、小麦粉を運ぶ大型タンカーが港で立ち往生している。ウクライナの小麦粉が届かなければアフリカは深刻な食料飢饉になる。ガソリン、ガス、電気だけでなく、多くの食料品や生活必需品が急激に値上げされ、フランス人の日常生活への影響も計り知れない。精神面でも悲惨な戦場の映像は見る人の心を破壊する。「聖霊降臨祭」を過ぎて夏のバカンスを楽しむに待つばかりの今、いつまで戦争が続くのだろうかと思うと重く沈んだ気持ちになる

フランスの6月は晴れて清々しい季節、心を押し潰すニュースを避けてパリ・モンマルトル美術館で開催中の『シャルル・カモワン展』(2022年3月11日から9月11日まで)を観に行くことにした。

シャルル・カモワン (Charles Camoin)(1879-1965)はマルセイユ生まれのフォーヴィスム(野獣派)の画家である。1897年母親とパリに移り、パリのボザールでギュスターヴ・モローのアトリエで学ぶ。1900-1903年アルル、エクサンプロヴァンスで徴兵に就き、ここでセザンヌと出会う。徴兵を終えて前衛芸術の中心地であるモンマルトルに戻り、1904年からはアンリ・マチス、アンリ・マンギャン、アルベール・マルケらと共に定期的にサロン出展を行う。サン・トロペ、カシ、コルシカ、イタリアと地中海の都市をフォーヴィスムの画家たちと旅行し、同じテーマで多くの作品を描く。1912年マルケと共にスペインに近いコリウールへ、1912-1913年にはマチスとモロッコの街タンジェに写生旅行をする。フォーヴィスムの画家たちにとって「内面」を描くのが絵画であるから、心が熱いときには砂浜は赤くなり、内面に訴えるならば黄色い犬でも構わない。詳細な形や線を避けるのも、心の自由な躍動に制限を与えないためだ。1914年から1918年の第一次世界大戦は戦地に赴き、当時の兵隊たちのデッサンや自画像、水彩画が展示されている。大戦が終了すると、マチスと一緒に南仏カーニュ・シュル・メールに移り住んでいたオーギュスト・ルノワールを訪れる。この出会い以降、ルノワールに倣った「裸婦」や「水浴する裸婦」の作品を描く。1920年「ロラ」(シャルロット・プロストの愛称)と結婚し、彼女をモデルにした作品も多い。カモワンの作品にはセザンヌ、マルケ、マチス、ルノワールの影響が明らかで、少数の画家たちだが印象派以後の前衛芸術として一つの流れを提示した。



モンマルトル美術館の中庭



1939年第二次世界大戦が始まると、60歳になったカモワンは徴兵を逃れ、サン・トロペでマチスやボナールらと共に絵画に専念する。第二次世界大戦後もパリと地中海を描くフォーヴィスム(野獣派)の画家として出展を続け、1962年生まれ故郷マルセイユで開催された「ギュスターヴ・モローとその弟子たち」展に「水浴する女たち」を描いた。

モンマルトル美術館はサクレ・クール寺院のすぐ側にある。似顔絵を描く画家たちが占拠するテルトル広場から歩いて3分。晴天も手伝ってサクレ・クール寺院付近は歩けないほどの観光局で溢れていた。2019年コロナ禍以前に戻った混雑に多少躊躇いを感じた。パリからマスクは

消え、メトロや列車でもマスク着用はせいぜい1-2割程度に過ぎない。マスクを奪い合ったのが嘘のようで、多量のマスクが薬局やスーパーで安売りされている。日本入国時の水際対策も大幅に緩和され、入国時PCR検査、空港付近での待機、2週間の自主隔離がなくなり、東京・パリ便が以前と同じ運行に戻る。ロシア上空を飛べないので飛行が3-4時間長くなるが嬉しいことだ。コロナ・ウイルスは変異を繰り返し、感染力はあっても致死率が低くなり終息と見做された。と同時に4回目ワクチン接種が推奨されているが、3月末コロナ感染した私は4回目はもう少し先に伸ばそうと思う。

